

ブラジル人学校と連携した日本語学習支援

静岡文化芸術大学責任者 広瀬英史

EAS 責任者 鈴木規之

報告学生 戸塚真友子（4年）

桑野紘子（3年）

諏訪かおり（3年）

1 概要

- (1) 静岡文化芸術大学日本語教員養成課程の実習科目（選択制）
静岡文化芸術大学日本語教員養成課程は2009年4月から開設された
実習は3年次以上が行う
多文化共生に関する科目を中心にした座学→日本語教育の実践
- (2) ブラジル人学校とのコラボレーション
日本中の大学で例を見ない、特色あるカリキュラム
週一回、ブラジル人学校の日本語教師と生徒が本学を訪れる
- (3) 学生による講義づくり ←本プロジェクト
児童生徒を対象とした日本語教室づくり
異文化体験、異文化間交流

2 目的（プロジェクト部分に関する目的）

- (1) PDCA
Plan（計画）Do（実行、授業）Check（評価）Action（改善）というサイクルを通し、学生の成長をめざす
- (2) 継続
単発的なイベントではなく、継続的な活動を通して、経験や知識が受け継がれていくことを目指す
- (3) 異文化体験・異文化間交流
日本で経験した外国語授業以外の形を学び、実践する
遊びながら、生活しながら、楽しみながら、日本語の習得を目指す
＝“テキストを学ぶ”ではない形
- (4) 外国での授業のシミュレーション

3 形式

90分の講義時間を半分に分ける

前半：ブラジル人学校で行われている実際の日本語教室

EAS 鈴木規之先生による日本語教室の授業見学と授業サポート

後半：本学の学生による日本語教室

4 プロジェクトの経緯

2011年度～2012年度

- ・年 20 回以上の授業実施
- ・中学生対象、日本語レベル N 2～N 4
- ・2011 年度は試行錯誤し、現在の形を作ってきた
- ・2012 年度から綿密な計画のもと、本格始動
- ・2012 年度は「日本文化を学ぶ」というテーマで行った
また、学習項目として、漢字、発表、ディスカッションの力をつけることを目指した

2013 年度

- ・年 20 回の授業を実施予定
- ・小学生中学年対象、日本語レベル N 4～N 5
- ・2013 年度は「日本語をたのしむ」というテーマで行っている
また、学習項目として、表現する力と動詞を使いこなす力をつけることを目指している

5 プロジェクトの成果

- ・日本人にとっても、ブラジル人学校の児童生徒にとっても、長い期間を通して日本人に触れることができたのは良い機会となっている
- ・単なる交流にとどまらず、継続的な交流を通して、お互いの考え方の違いを語り合うことができた点は大きな成果といえる（2012 年度実践）
- ・初年度（2011 年度）では、「大学に行きたくない」と言う EAS の生徒が出たが、その後の修正により、「大学生と会うのが楽しみ」「明日も大学に行けるの」という声が聞かれるようにまでなった
- ・大学生との授業（水曜日）に向けて、EAS での日本語学習のモチベーションが高まった
- ・実習をする学生たちが、段階的な学習を意識し、授業案を立てられるようになってきた

6 今後の課題

- ・EAS の生徒数の増減により授業の成立が左右されてしまう
- ・前期と後期の長期の間（夏休み）により、進度が後退してしまう
- ・異文化体験・異文化交流の点では大きな効果が見られるが、ブラジル人学校の児童生徒の日本語力の成果に関しては、学生に伝わりにくい